



去った九月二十七日は旧暦八月十五日に当たり、普天間では満月の下、伝統獅子舞が披露されました。地元の方が大切に受け継いできた芸能には、現代人が脱ぎ捨ててしまった華が残っている気がしました。

さて、今月は神宮寺最大行事の観音祭とふてんままつりが開催されます。今回はお祭りについてのお話です。

ふてんままつりとは 良啓



平成二十一年に神宮寺は創建五百五十年を迎えました。

「お手を身近に」をコンセプトにお寺らしい、お寺でしか出来ないお祭りを考えて、地域の様々な団体・企業・個人様にご協力頂き、回を重ねてきました。プログラムは寺祭りと言えは稚児行列（ちごぎょうれつ）、真言密教の秘法である火渡り行の体験、お坊さんの法話から生まれた落語、祈りのダンスであるフラ、最近の社会現象になっっている写経などオンラインワンのものをご用意しております。特に稚児行列は何度もご参加頂いているお子様がいて、本当に楽しい行事となっています。

また、祭りと言えは美味しい出店です。店舗は市内を中心に営業している方々にご協力頂き、お店の味がそのままに境内に食べる事が出来ます。

お寺と言えは、葬式する場所、法事を頼む所などのイメージが強く、それ以外の理由でお参りする事が少ないと思いますが、その様な事はございません。生きている人が幸せになる様にお手伝いをする事が仏教の目的ですので、楽しく美味しく笑顔になれるお祭り、ふてんままつりにどうぞメンソーレ！

弘法大師のことは 裕俊

香を執れば自らふく馥し、衣を洗えばあしきよ脚淨し

「遍照發揮性靈集」

「常に香を持ってしていると自分の体から良い香りがし、川で衣を洗えば自分の足も清浄になる。」

香というのは自分の行いを表しています。自分がいつも笑顔で人に接していると、周りの人々も笑顔になる。自分が良い事をする、周りにも良い事が広がっていく。そして、香（良い事）がしみ込んだ衣を川で洗うと、香が流れ出し、自分の脚を綺麗にする（良い事が自分に帰ってくる）という事です。

良い香りがする人の近くにいると、気持ち良くなりますよ。あなたの良い香り、周囲の人々を気持ちよくさせてあげましょう。

